

【留意事項】

- (1) 運用容量値は、電圧や系統安定度などの制約により、変わる場合があります。備考欄をご参照願います。
  - ※1 1回線送電線(1バンク運用)のため1回線(1バンク)設備容量を記載
  - ※2 3回線送電線(3バンク運用)のため1回線(1バンク)故障時を考慮し2回線(2バンク)分の容量を記載
  - ※3 1回線(1バンク)故障時の電源抑制や系統切替を前提に時間を限定して使用できる設計上の熱容量を考慮
- (2) 空容量は目安であり、系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、空容量が変更となる場合があります。
- (3) 原則として熱容量に基づく空容量を記載しております。その他の要因(電圧や系統安定度など)で連系制約が発生する場合があります。
- (4) N-1電制適用可否欄には、熱容量制約の解消を目的とした当該設備へのN-1電制の適用可否の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可否が変更となる場合があります。適用不可の場合の理由は以下のとおりです。
  - ※1 配電用変電所のため(高圧電源の系統連系の場合、N-1電制は対象外となります。)
- (5) N-1電制適用可能量欄には、熱容量制約の解消のため当該設備にN-1電制を適用した場合の適用可能量(上位系考慮なし)の目安を記載しております。系統接続の前には、接続検討のお申込みによる詳細検討が必要となります。その結果、適用可能量が変わる場合があります。なお、高圧系統に接続される電源の場合、N-1電制は対象外となります。
- (6) 発電設備等が連系する変圧器によっては、別途バンク逆潮流対策が必要になる可能性があります。
- (7) 3年以内に増強した系統へ連系する場合は、空容量の範囲内であっても、増強工事費の一部を負担いただくことがあります。
- (8) 社会的に影響を与えることが懸念される重要施設への供給系統に関する情報や、電力供給契約が特定できるような第三者情報などについては、公開していません。
- (9) 個々の電源の運転状況や需要者の電力使用状況が推測可能な電源線や専用線等であり、設備容量、運用容量、N-1電制可否、N-1電制可能量を非公開とする設備は、備考欄に「◇」を記載しております。

送電線 No	送電線名	電圧 (kV)	回線数	設備容量 (100×回線数)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	備考
							当該設備	上位系等考慮			
2	茨戸線	66	2	230	136	熱容量	9	9	可	94	
3	茨戸線	66	2	230	137	熱容量	0	0	可	93	※3
5	石狩線	66	2	145	145	熱容量	0	0	可	0	※3
6	石狩線	66	2	145	145	熱容量	0	0	可	0	※3
7	石狩線	66	2	145	115	熱容量	0	0	可	30	※3
9	屯田地中支線	66	2	163	90	熱容量	103	9	可	73	
11	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	42	0	—	—	◇
12	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	38	0	—	—	◇
13	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	21	0	—	—	◇
14	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	27	0	—	—	◇
15	他社地中支線	66	1	—	—	熱容量	33	0	—	—	◇
16	他社地中支線	66	1	—	—	熱容量	24	0	—	—	◇
17	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	7	0	—	—	◇
20	樽川地中線	66	2	143	82	熱容量	0	0	可	61	
22	他社地中線	66	2	—	—	熱容量	27	0	—	—	◇
23	他社地中線	66	2	—	—	熱容量	27	0	—	—	◇
24	他社地中支線	66	1	—	—	熱容量	21	0	—	—	◇
30	新琴似線	66	2	352	196	熱容量	230	123	可	100	
31	琴似支線	66	2	228	135	熱容量	169	123	可	93	
33	桑園地中線	66	2	109	63	熱容量	77	77	可	46	
35	新琴似線	66	2	160	90	熱容量	90	90	可	70	
40	他社線	66	2	316	158	熱容量	199	123	可	100	
41	他社線	66	2	316	158	熱容量	198	123	可	100	
42	宮の沢地中線	66	2	228	133	熱容量	173	123	可	95	
44	山の手地中線	66	2	180	90	熱容量	118	118	可	90	
45	山の手地中線	66	2	165	91	熱容量	117	117	可	74	
46	山の手地中線	66	2	118	66	熱容量	81	81	可	52	
48	他社地中線	66	1	—	—	熱容量	24	24	—	—	◇
49	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	30	30	—	—	◇
50	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	36	36	—	—	◇
53	西野三条地中支線	66	2	142	82	熱容量	92	92	可	60	
60	手稲東線	66	2	141	84	熱容量	110	110	可	57	
61	手稲東線	66	2	141	84	熱容量	109	109	可	57	
62	手稲東線	66	2	118	59	熱容量	74	74	可	59	
64	他社線	66	1	—	—	熱容量	58	58	—	—	◇
65	他社地中支線	66	2	—	—	熱容量	41	41	—	—	◇
66	前田地中支線	66	2	131	79	熱容量	88	88	可	52	

変電所 No	変電所名	電圧 (kV)		台数	設備容量 (100×台数)	運用容量値 (MW)	運用容量制約要因	空容量(MW)		N-1電制適用可否	N-1電制適用可能量 (MW)	備考
		一次	二次					当該設備	上位系等考慮			
1	西札幌変電所	187	66	3	600	391	熱容量	123	123	可	100	※2
		66	6.6	1	20	20	熱容量	20	20	不可 #1	—	※1
4	茨戸変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	0	不可 #1	—	
8	石狩変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	18	0	不可 #1	—	
10	屯田変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	9	不可 #1	—	
21	樽川変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	0	不可 #1	—	
32	琴似変電所	66	6.6	3	60	40	熱容量	20	20	不可 #1	—	※2
34	二十四軒変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	20	不可 #1	—	
43	宮の沢変電所	66	6.6	3	45	30	熱容量	15	15	不可 #1	—	※2
47	山の手変電所	66	6.6	3	60	40	熱容量	20	20	不可 #1	—	※2
54	西野三条変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	20	不可 #1	—	
63	手稲変電所	66	6.6	2	40	20	熱容量	20	20	不可 #1	—	
67	前田変電所	66	6.6	3	60	40	熱容量	20	20	不可 #1	—	※2